4　大平 民人（高冷地花きコンサルツ）　長野県 上伊那郡南箕輪村

（ながのけん　かみいなぐんみなみみのわむら）

農林漁業、農村文化体験　６次産業化

自生植物の営利栽培化による集落発展モデル

活動の経緯

中山間地域の抱える最大の問題点は，地域の農業産業が主として労働生産性面から衰退・崩壊し、農業の担い手が高齢化、後継者がいない事態を招いてしまったことにある。中山間地域で若者が農業経営の主体となり、地域の兼業農家や高齢者層の余力、生き甲斐をも利用、具現化でき、纏まりのある集落展開が可能になることを想定した新しい農業産業を興す必要性を意識してきた。これは農業改良普及員になる新任地に過疎化初期の村を希望した使命感に起因する。

活動の概要

農業の六次産業化法、研究開発成果利用事業、「事業名　国内自生植物・主として花木類の営利栽培用品種の開発並びにその利用による中山間地域の産業振興」の認定を受け実施。

品種開発の際考慮した長期出荷栽培体系確立

画像提供元：花卉懇談会

大平民人　写真、東京農業大学で

活動の成果、主な実績等

１．取組（事業）の背景：日本の自生植物種は世界的に見て極めて多く、中山間地域で雑木・雑草として扱われる植物類は鑑賞花きの立場から見ると大きな宝である。これらの営利的利用は、枝物花木類では山採りや栽培化があったが、生産性、経済性面等から衰退しつつある。一方、国外に渡った種は営利品種化、世界流通され、植物特許料を支払い国内で利用される事態にある。自生種は形態・性質特性等に変異（遺伝子幅）が大きく、自生地での営利栽培用品種の開発には最も有利な立場にあり、自生国の強みを活かす選抜・育種、栽培化等自生植物の利用は、中山間地域に新しい風を運ぶと確信する。

２．実践実証の内容：（１）営利栽培化可能品種の開発並びに種苗登録化　ア　登録目標候補１０属派生含む28系統を栽培、種苗登録・出願公表品種併せ８品種を開発した。　イ　開発には花木栽培を主体とする集落維持模式を想定、事業推進の集落経営体に必要な品目の長期出荷栽培体系の確立、経営目標樹立のための収益性試算を実施。　（２）産業振興支援のための成果利用活動　ア　ホームページの活用　イ　花卉懇談会（東京農業大学事務局）セミナーでの講演　ウ　長野県下関係機関116カ所へのDM送付　エ　福島相双復興推進機構とのコンサル業務委託契約活動、等　（３）登録品種の国内外での知財活用：　オランダ(EU)の種苗登録化を目指し、開発２品種を30（2018）年３月空輸、令和２（2020）年11月登録完了。